

会津農林

かわら版



▲秋の紅葉の様子

目次

- P 1 ----- Chapter 1：会津の農業振興
令和7年度第1回農業普及推進懇談会を開催
- P 2 ----- 鳥獣被害対策を総合的に実施するモデル地区で中間検討会を実施
令和7年度スマート農業セミナー（充電式運搬車）を開催
- P 3 ----- 花育授業in会津美里町立新鶴小学校
- P 4 ----- Chapter 2：会津のブランド力向上
宿根カスミソウ品種比較検討会を開催！
会津農林高校生を対象としたオタネニンジン研修会の開催！
- P 5 ----- 喜多方市産小麦「夏黄金」普及・拡大の取組
- P 6 ----- 会津・奥会津物産フェアを開催
「おいしい ふくしま いただきます！キャンペーン」同時開催
- P 7 ----- Chapter 3：受賞おめでとうございます
第66回福島県農業賞を受賞
- P 9 ----- 優良工事表彰 受賞
- P 10 ----- 「株式会社若宮ばくさく」が令和7年度全国優良経営体表彰を受賞
- P 11 ----- Chapter 4：多様な担い手の確保・育成
会津農林高校の生徒を対象とした「就農インターンシップ研修」を開催
- P 12 ----- 「ふくしまの農村学びの場」～県内の小中学生が農村整備の現場を学びました～
- P 13 ----- 林業現場見学会を開催・青年農業者等の人材確保に向けたセミナーを開催
- P 14 ----- 令和7年度 新規就農者等研修会を開催中
- P 15～18 特集：「会津棚田米応援セット」！～高校生のデザインで地域の魅力を発信～

Chapter 1 : 会津の農業振興

令和7年度第1回 農業普及推進懇談会を開催

▼現地検討の様子



令和7年度第1回農業普及推進懇談会を農業振興普及部（8月6日）、喜多方農業普及所（8月21日）、会津坂下農業普及所（8月5日）で開催しました。本懇談会は、普及指導協力委員をはじめ農業者や関係機関・団体の代表で構成され、普及指導活動について広く意見を聴取し、今後の活動に反映させることを目的に年2回開催しています。

はじめに会議形式で、令和7年度普及指導計画と令和7年度上半期の活動実績について説明し、意見交換を行いました。構成員からは、担い手の確保・育成、農産物の流通・販売、環境と共生する農業の推進、高温対策などについて、多くの意見や要望が寄せられ、普及活動に対する期待の大きさを感じされました。

続いて現地に移動し、農業振興普及部では「水稻乾田直播と大豆ブロックローテーション」（会津若松市）、喜多方農業普及所では「グリーンな栽培体系加速化事業の水稻における実証」（喜多方市塙川町）および「アスパラガス施設導入による安定経営」（喜多方市山都町）、会津坂下農業普及所では「ほ場整備地区における新規就農者による高収益作物栽培の取組」（会津美里町）について現地検討を行いました。現地検討においても栽培技術や経営面などさまざまな視点から質問等があり、それぞれの懇談会とも盛況のうちに終了しました。

今回いただいた貴重な意見や要望は、年度後半の普及活動に反映させ、より効果的な普及指導活動を進めていきます。

（農業振興普及部）



鳥獣被害対策を総合的に実施する モデル地区で中間検討会を実施

鳥獣被害防止対策モデル地区を設置している会津若松市門田町御山地区（北御山・南御山）において、中間検討会を開催しました。（北御山地区10月17日、南御山地区8月18日）

両地区とも、住民が中心となった草刈りなどの適正な電気柵管理により、鳥獣被害対策に必要な電圧が維持され、ツキノワグマ侵入防止やイノシシによる掘り起こしの減少など、一定の成果がみられました。一方で、依然として鳥獣被害が発生しているため、今後とも関係機関と連携しながら地区の課題解決にむけてセンサーカメラの設置など支援していきます。

全国的にツキノワグマの人身被害が多発していますので、農業現場においても十分にご注意願います。なお、ツキノワグマ対策は県自然保護課のHPをご参照ください。

令和7年度クマの大量出没から身を守るためにできること

「<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/16035b/kumasyutubotu.html>」

(農業振興普及部)

令和7年度スマート農業セミナー (充電式運搬車) を開催



会津地域の果樹経営では、高齢化や担い手不足により栽培に必要な労働力が不足し、適期管理が難しくなってきています。中でも、資材や収穫果実等の運搬は必要な労力負担が大きく、省力化が求められています。

そこで、10月21日に会津若松市門田町で開催した令和7年度スマート農業セミナー（充電式運搬車）では果樹生産者等6名が参加し、会津地方で導入されていない充電式運搬車の実演と参加者による作業体験を行いました。

今回紹介した充電式運搬車は、斜面でも安定して資材やコンテナ等を大量に運べる優れものです。

参加者は、「収穫した果実を入れたコンテナを軽トラックに載せるが、軽トラックが入れないところからも運搬できて便利そうだ」、「斜面でも安定していて使いやすそうだ」と、興味深そうに充電式運搬車を確認していました。会津地方での普及拡大に期待が持たれます。



▲セミナーの様子

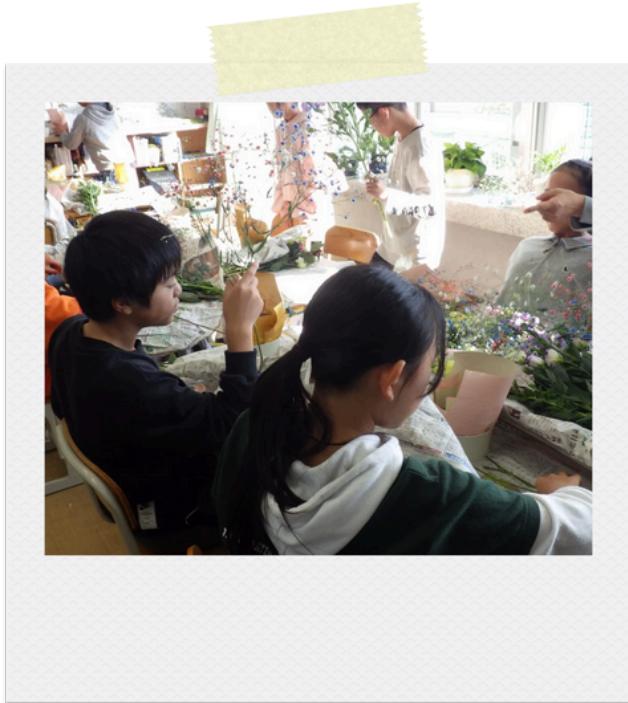
(農業振興普及部)



花育授業in会津美里町立新鶴小学校



▲集合写真



▲フラワーアレンジメントの様子

10月29日に会津美里町立新鶴小学校において、フラワーアレンジメント教室を開催しました。この活動は県産花きの消費拡大にむけたPR活動及び花育活動の一環で、新鶴小学校の6年生児童を対象に会津若松市内の有限会社すみれ花店の指導により行われました。

はじめに、会津坂下農業普及所から県内と会津美里町新鶴地区の花き栽培の状況を紹介した後、すみれ花店の今泉大地氏と竹村剛氏によりフラワーアレンジメントの指導をいただきました。指導を受けて子供たちは、新鶴地区の生産者からプレゼントされた宿根カスミソウと県内産の花材を用いて、思い思いに花を生けていました。

フラワーアレンジメントは初めてという児童が多く、「とても楽しかった」「花に興味がわきました」などの感想が寄せられ、非常に良い経験になったようです。

(会津坂下農業普及所)

Chapter 2 : 会津のブランド力向上

宿根カスミソウ品種比較検討会を開催！

会津坂下農業普及所では、地域を代表する農作物である「宿根カスミソウ」について、会津坂下町と昭和村の2カ所で品種比較展示ほの設置・運営支援を行っています。



▲現地検討会の様子

会津坂下町海老細地区（会津坂下農業普及所主催）では、10月～11月咲き作型の品種比較が行われ、10月24日（金）に開催された現地検討会には生産者などが35名参加しました。

昭和村矢ノ原地区（昭和村花き振興協議会主催）では、9月咲き作型の品種比較が行われ、8月25日（月）及び9月5日（金）に開催された現地検討会には計41名の生産者が参加しました。

当所では宿根カスミソウの更なる生産振興に向け、今後も支援を続けていきます。

（会津坂下農業普及所）

会津農林高校生を対象とした オタネニンジン研修会の開催！

9月19日、会津農林高等学校にて、地域創生科の生徒7名を対象としたオタネニンジン栽培研修会が開催されました。

この研修会は、新鶴温泉「んだ」を中心に、会津農林高等学校、会津伝統野菜の種の保存から栽培・普及活動まで幅広く取り組まれている団体「人と種をつなぐ会津伝統野菜」、清水薬草有限会社、会津農林事務所等が連携し、地域特産物であるオタネニンジンの生産拡大を目指すものです。

当日は県農業総合センター会津地域研究所の中村陽登研究員を講師として、オタネニンジンを播種する前にあらかじめ芽を出させる催芽処理を実際に体験してもらいました。

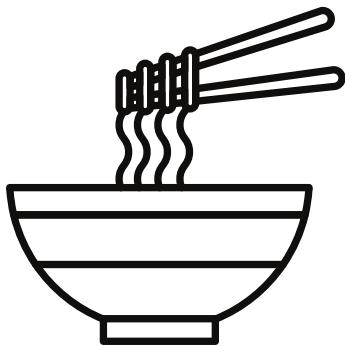
生徒達は、オタネニンジンにおける催芽処理の重要性や、催芽処理の手法を学びながら、オタネニンジンへの理解を深めていました。



▲オタネニンジン催芽処理の様子

（会津坂下農業普及所）

喜多方市産小麦「夏黄金」普及・拡大の取組



喜多方市では、喜多方ラーメンのブランド力向上に向け、市内産小麦の活用に注目が集まっています。

令和6年9月には国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構と喜多方麦作組合の間で「夏黄金」の種子生産等にかかる利用許諾契約を締結し、種子の生産(50a)を実施し、720kgの種子を確保しました。

令和8年産「夏黄金」(令和8年収穫)の作付面積は喜多方麦作組合の生産者を中心に約8haに拡大し、令和9年産「夏黄金」の生産者を募集するなど、今後の生産拡大が見込まれます。

また、11月5日には生産と活用の拡大に向けて、「夏黄金」を使用したラーメンの試食会が開催され、参加者からは「のど越しがとても良い」、「麺がモチモチしている」という感想が聞かれ、大好評でした。今後、令和8年産の喜多方市産「夏黄金」を使用した喜多方ラーメンの販売が期待されます。

当所では、今後の本格流通と生産者の所得向上に向けて、「夏黄金」の生産拡大と安定生産を図るため市やJAと連携し、支援をしていきます。

(喜多方農業普及所)



▲令和8年産夏黄金播種の様子



▲試食会の様子



会津・奥会津物産フェアを開催

9月27日～28日にイオンいわき店にて奥会津物産フェア、10月4日～5日にイオン山形南店にて会津物産フェアを開催しました。

奥会津物産フェアでは7事業者、会津物産フェアでは10事業者が出し、奥会津地域を中心とした会津地域の様々な6次化商品や、農林水産物などの販売を行いました。

会場では令和5年7月に地理的表示（G I）保護制度に登録された昭和かすみ草を配布しPRを行ったほか、会津・南会津地域の農林水産物や6次化商品を紹介するチラシを配布し、広く会津地域の魅力をPRしました。

来場者からは「珍しい奥会津金山赤かぼちゃ®を購入出来て嬉しい」「昭和かすみ草がとてもきれい」等の声が寄せられました。

今後も県産農林水産物の消費拡大に努めていきます。



（企画部）

「おいしい ふくしま いただきます！ キャンペーン」同時開催

9月27日にイオンいわき店で第3回「おいしいふくしま いただきます！」キャンペーン、10月4日にイオン山形南店において「ふくしま知っ得ク」キャンペーンを実施しました。

キャンペーンでは、県産農林水産物等に関するアンケートにご回答いただいた方に、会津産ミニトマトや昭和村お煎餅をプレゼントしました。参加者からは「最近野菜の値段が高くなってきてるので、もらえて嬉しい」「昭和村行ったことあるよ」などの意見が寄せられました。



▲キャンペーンの様子

（企画部）

Chapter 3 : 受賞おめでとうございます

第66回福島県農業賞を受賞



9月9日、福島市の杉妻会館において第66回福島県農業賞の表彰式が行われました。農業経営改善部門では会津若松市の岩渕薰・公美氏、集団活動部門・農村女性活動の部では会津坂下町の両沼女性ネット、新規就農部門では喜多方市の石井達也・有希氏が受賞されました。今回の受賞を受け、受賞者の皆様には今後も会津地域の農業を牽引するリーダーとしてさらなる経営の発展をご期待します。

【農業経営改善部門 岩渕薰・公美氏】

岩渕夫妻は、トルコギキョウといちごの複合経営を行い、雪国会津で園芸の周年経営を実現しています。トルコギキョウの全国的な課題である立枯病対策について土壌消毒の方法等を自ら試行錯誤のうえ生産方法を検討した結果、被害が大幅に軽減されるなど高い技術力と探究心により安定的に高品質な切花を生産しています。また、いちごでは消費者の嗜好を考えた栽培を行うとともに、6次化の取組や無人販売機の導入など地域への観光客等の呼び込みにも貢献しています。

(農業振興普及部)



▲ 福島民報社賞を授与される岩渕薰氏



▲ 農業経営改善部門 岩渕薰・公美氏

【集団活動部門・農村女性活動の部
両沼女性ネット】

両沼女性ネットは、平成19年に設立されて以来、女性農業者ならではの感性や視点を生かし、地域や年齢、経営形態の枠にとらわれず、女性農業者の認知度向上や地域農業の振興ならびに地域の活性化に貢献されてこられたことが高く評価され、このたびの受賞となりました。

10月17日には、道の駅あいづ湯川・会津坂下の農家レストラン「くうべえる」にて祝賀会が開催され、会津農林事務所の遠藤所長をはじめ、会津坂下町の板橋正良副町長など、関係者10名が参加し、受賞された両沼女性ネットを祝福しました。

今回の受賞を受け、両沼女性ネットの皆様には今後も両沼地方の農業振興に尽力されることを期待しています。

(会津坂下農業普及所)

▼集団活動部門・農村女性活動の部
両沼女性ネット



▲祝賀会の様子



第66回 福島県農業賞表彰式



▲新規就農部門 石井達也・有希氏

【新規就農部門 石井達也・有希氏】

石井さん御夫妻は、令和3年に就農され現在パイプハウス6棟できゅうりを栽培しています。

就農当初から技術の研鑽に励み、10㌃収量は現在25㌧と地域でもトップレベルの単収を達成し、短期間で安定した営農を実現されました。

今年秋にはパイプハウスを4棟増設し、更なる収量の増加を目指すとともに、今後は廃棄される規格外きゅうりを用いた6次化商品の開発や後継者育成にも取り組み、喜多方地域のきゅうり産地活性化に貢献したいと抱負を述べており、今後益々の経営発展が期待されます。

(喜多方農業普及所)

優良工事表彰 受賞



福島県では農林水産部が発注した工事のうち、各年度ごとに出出来映えや現場の体制、創意工夫などで他の工事と比べ極めて優秀な工事を優良農林水産土木工事として表彰しています。令和6年度工事を対象とする今年の優良工事では、会津農林事務所管内は農村整備部及び森林林業部が担当工事で、それぞれ1社が受賞しました。



▲優良工事を受賞したトンネル内部

農業農村整備工事では特殊構造物部門で会津土建株式会社が受賞しました。本工事はかんがい排水事業 吉ヶ平1期地区（会津若松市漆）で農業用排水路トンネルを新設するもので、NATM工法の最小断面を採用しています。

狭小な条件下でも高品質な施工を実現するため、高周波バイブレーターの使用や非貫通型鉄筋金具の採用、ネジ継手による作業効率化、安全確保のための情報機器設置などを行ったことが評価され、今回の受賞に至りました。

（農村整備部）



▲優良工事を受賞した「新鶴・柳津線」

森林土木工事では、林道部門で株式会社共立土建が受賞しました。本工事は山のみち地域づくり交付金事業 新鶴・柳津線で森林地域の骨格となる林道を整備するもので、土砂撤去や仮設防護柵の設置が必要となる厳しい作業条件下で、現地測量や土工事の施工に関しては、自動追尾トータルステーションを活用し、測量作業の軽減とナビゲーション付バックホウによる切土や構造物床堀の作業を行うことにより作業効率の向上が図られています。

また、熊の出没を監視するセンサー付きカメラを設置し、作業員の安全対策や施工箇所に至る林道の除草作業も行われました。

以上のような工程管理・品質管理に加え、工事全体の出来栄えが評価され、受賞に至りました。

（森林林業部）

「株式会社若宮ばくさく」が 令和7年度全国優良経営体表彰を受賞



▲遠藤所長、株式会社若宮ばくさく

株式会社若宮ばくさく（会津坂下町）は、農林水産省等が主催する令和7年度全国優良経営体表彰において、全国担い手育成総合対策支援協議会会长賞を受賞され、去る10月23日に鹿児島県鹿児島市で授与式が行われました。

本表彰は、農業経営の改善や地域農業の振興・活性化に優れた功績を挙げた農業者を表彰する事業です。

若宮ばくさくは、水稻やそば、農作業受託等に取り組み、会津地方でも有数の規模を誇る法人であるとともに、ICTを活用したスマート農業の実践や、そばの製粉残渣を活用した特別栽培米の生産、さらには、粒殻たい肥のほ場還元などの環境にやさしい農業への取り組みなどが高く評価されました。

11月5日、受賞の報告のため、内海淳一代表取締役と鈴木寿夫取締役が会津農林事務所を訪れました。

内海代表取締役は「大変名誉な賞をいただけてうれしい。今後も真面目にきちんと農業に取り組んでいきます。」と受賞の喜びを語りました。

遠藤所長は「会津地域の先頭を走っている、リーダー的な存在です。今後の活躍も期待しています。」と受賞を称えました。更なる御活躍と経営発展を期待します。

(会津坂下農業普及所)

Chapter 4：多様な担い手の確保・育成

会津農林高校の生徒を対象とした 「就農インターンシップ研修」を開催

9月9日（火）から11日（木）の3日間にかけて、会津農林高等学校2年生9名を対象に「就農インターンシップ研修」を開催しました。この研修は生徒が会津地域の農業経営体へ3日間研修に行き、農作業などを実際に体験することで、農業の魅力と農業への理解、関心を深めてもらうことを目的に開催しています。今年は、水稻、園芸、花き、畜産（酪農）の計8戸の経営体が受け入れ、研修を実施しました。今回の受け入れ経営体は水稻だけでなく複合経営や農畜産物の6次産業化に取り組む経営体もあり、研修した生徒からは「農業の大変さが分かった。」「大変だが夢や楽しさがある。」など様々な感想が寄せられました。若い世代が農業の魅力を知るきっかけや、農業を将来の職業選択の一つとして考える機会になるよう、引き続き会津農林高等学校や会津地域の生産者の方々と連携し、実施していきます。

（農業振興普及部）



▲メロン収穫作業



▲メロン出荷準備

「ふくしまの農村学びの場」 ～県内の小中学生が農村整備の現場を学びました～



▲重機搭乗体験の様子

9月13日、県内の小中学生とその保護者を対象に、「ふくしまの農村学びの場」見学会を開催しました。参加者は、ほ場整備の現場や、農業に欠かせない農業用水を支える新宮川ダム（会津美里町）を訪れ、実際に見て、体験しながら学びました。

ほ場整備の現場（本田地区・会津若松市北会津町）では、土を掘る「バックホー」、地面を平らにする「ブルドーザー」の搭乗体験を行いました。普段なかなか触れることのない重機に、子供たちは目を輝かせて乗り込み、レバーを操作すると歓声が上がっていました。また、自分の歩幅で田んぼの一辺を測る「歩測体験」も行い、楽しみながら農業土木の仕事に触れてもらいました。



▲監査廊の階段を上る参加者

続いて訪れた新宮川ダムでは、普段立ち入ることができない「監査廊」と呼ばれるダム点検用の通路を歩きました。ダム内部にあるこの通路は、夏でも涼しく快適ですが、出入りにはおよそ200段もの階段を上り下りしなければなりません。実際にこの階段を使って点検作業している職員の話を聞き、参加者は水を安全に届けるための努力に驚きながら、改めて水の大切さを実感している様子でした。また、ダム貯水池の水と監査廊内の水を比較し、水質を調べる体験も行いました。

今回の見学会で、農業土木の魅力や農業用水の大切さについて学んでもらうことができました。

（農村整備部）

青年農業者等の材確保に向けたセミナーを開催



▲林業機械シミュレーター体験



▲森林整備作業見学

林業分野での新規就業者の確保や林業への理解促進などを目的として、会津農林高等学校の生徒を対象に、9月30日に林業現場見学会を開催しました。環境科学科2年生19名が、林業事業体による猪苗代町の森林整備作業現場や製材所、林業研修施設（林業アカデミーふくしま）の見学を行いました。

この見学会を通して、現場での木の伐採から加工までの流れや最先端の林業技術にふれることで、林業や森林資源の活用等について学びを深めていただきました。生徒の中には林業アカデミーふくしまへの入講に関心を示す生徒もおり、今後もこのような見学会を通じて、将来の林業分野での就業につながる支援を続けていきます。

（森林林業部）



（喜多方農業普及所）



▲雇用確保について質問する参加者

参加者からは、単発バイトアプリを使う際の労災保険の加入方法や福祉事業所とのマッチング方法等について質問がなされるなど、関心の高さがうかがえました。

開催後のアンケートでは、「単発バイトアプリの活用を検討する」と回答をいただきました。

当所では、引き続き青年農業者等の経営改善に向けて支援していきます。

新規就農者や青年農業者等の経営発展と安定化に向けては、多様な人材を活用した雇用の確保が必要不可欠であることから、10月23日（木）、押切川公園体育館（喜多方市）において、農業法人や認定新規就農者等を対象とした人材確保に向けたセミナーを開催しました。

セミナーでは、単発バイトアプリ（ディワーカ、タイミー）を活用した雇用確保や農福連携の取組・事例について、福島県農業協同組合中央会、株式会社タイミー、全国農業協同組合連合会福島県本部、福島県授産事業振興会よりご講演いただきました。

令和7年度 新規就農者等研修会を開催中

11月4日（火）、県農業総合センター会津地域研究所において、第1回新規就農者等研修会を開催しました。

本研修会は、新規就農者の農業経営・技術の早期安定と人脈づくりを目的に開催しており、全4回の開催を予定しています。

第1回

今回は、「農業機械の点検整備」をテーマに、農作業で欠かすことのできないトラクター、ロータリー、管理機、草刈機の点検整備と農作業安全について、株式会社ヤンマー、農業短期大学校研修部より講義いただきました。

研修会では、参加者が講師の説明を聞きながら、整備方法について積極的に質問する様子が見られました。

第2回

11月11日に湯川村の道の駅あいづ坂下・湯川で研修会を開催したところ、農業者14名の参加がありました。研修の前半は全体会として農業総合センターから、全般的な土づくりと施肥について、後半は作物毎（水稻・畑作物、野菜、花き、果樹）の分科会に分かれて、各専門の普及員より土壌管理と施肥について説明を行いました。全体会、分科会とも、参加者と説明者との間で活発な質疑応答・意見交換が行われました。

～今後の開催予定～

第3回 就農の基礎知識、事例紹介

11月28日（金）

13：30～16：00

第4回 農薬適正使用、病害虫防除

12月16日（火）

13：30～15：30



▲トラクターの点検整備方法を学ぶ参加者

（農業振興普及部・喜多方農業普及所・会津坂下農業普及所）

特集

「会津棚田米応援セット」! ～高校生のデザインで地域の魅力を発信～

棚田は農産物の供給の他、自然環境の保全や伝統文化の継承等の多面的な機能を持っており、これからも守っていくべき資源です。企画部では、棚田地域の振興を重要な業務の一つとして推進しており、棚田の保全や魅力発信を積極的に行っている地域を応援してきました。今年度はこれらの地域を応援する新たな取組として、会津地方の棚田保全組織が栽培し棚田米をセット販売する企画を立ち上げました。

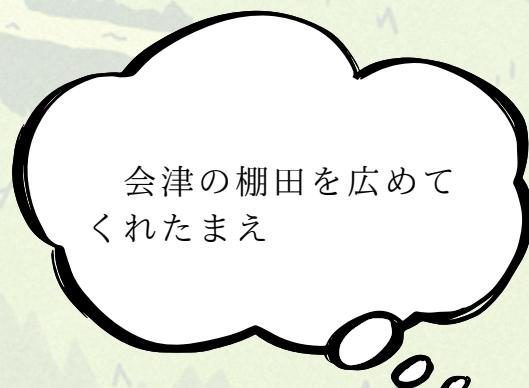
～1. 新企画の概要～

会津地域には「指定棚田地域」の認定を受けた3つの地域の他、棚田を保全しつつ、グリーンツーリズムや教育旅行の受け入れ等の交流活動を行っている活動組織があります。

会津農林事務所では、令和4年度から「X」（旧ツイッター）を活用した会津地域の棚田米のプレゼントキャンペーンを実施し、棚田の価値を広く知ってもらう取組をおこなってきました。

今年は、一層効果の高い棚田のPRを目的に、複数地域の棚田米のセット販売企画を開始しました。

具体的には県の棚田支援事業を活用していただいている活動組織に企画を提案し、御賛同をいただいた3地域で生産された棚田米をセットにすることが決まりました。また、若い世代が地域資源に関わる機会の創出も併せて行うため、商品化にあたってのパッケージのイラストを高校生に依頼し、さらに商品としての一定の水準を確保するため、デザインの専門家に監修いただくことにしました。



～2. 企画始動！～

この企画に際し、以下の皆様にご協力をお願いしたところ、快く引き受けてくださいました。

(1) 棚田活動組織：川前の棚田（北塩原村：株式会社あいばせ）

ほんそんの棚田（喜多方市高郷町：ほんそん未来プロジェクト実行委員会）

こづちやま棚田（喜多方市高郷町：こづちやま棚田の会）

(2) 高校：会津若松ザベリオ学園高校1年生

(3) デザイン監修：会津大学短期大学部 高橋延昌教授（デザイン情報コース担当）

なお、販売するお米の種類は「コシヒカリ」で統一することにしました。

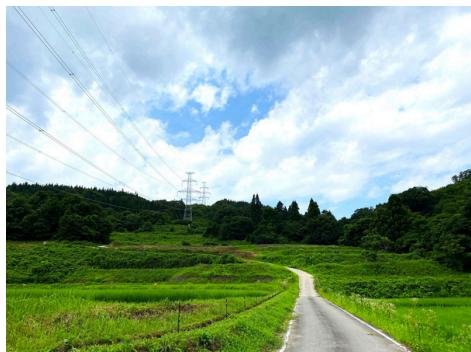
川前の棚田

喜多方市街地から車で15分ほど。清流大塩川をはさんで川前棚田より対岸にも棚田が見え、いかにも里山の田園風景が広がっています。



ほんそんの棚田

主な産業は農業で、稲作とそば作りが盛んです。棚田で米作りができる地域のため質の高い米を生産することができ、その米をブランドにし、集落全体で販売を行っています。



こづちやま棚田

東には会津の靈峰「磐梯山」が臨め、眼下には棚田が広がっています。その眺望を生かしたイベント「棚田ウォーク」も好評を得ています。北には日本で二番目に高い「富士山（508.8m）」があり、「富士山山開き」のイベントも開催しています。



～3. 農作業体験とデザイン学習～

ザベリオ学園高校の生徒の皆さんのがデザインを考えるにあたり、学校側から「棚田のイメージを掴むために棚田での農作業を体験したい」という積極的な意見をいただいたことから、5月29日（木）に川前の棚田で活動を行っている「株式会社あいばせ」様のご協力のもと、田植え体験を実施しました。



高校生の皆さんには、初めは「あいばせ」の皆さんとの田植え作業を見様見真似で行っていました。なかなか作業が進みませんでしたが、次第に慣れ、全員が持ち分の田植えを終えることができました。泥んこになりながらも、皆さん楽しんでくれたようです。この時の様子は、農林水産部公式YouTubeチャンネルにてご覧いただけますので、ぜひご覧ください。
(<https://youtu.be/eAZUmRXudYg?si=WJdg2-PADFJBud8t>)



続いては、商品のデザインに関する学習です。7月10日（木）、ザベリオ学園にて高橋教授による講義が行われました。商品のコンセプトを定めること、ターゲット層によってパッケージの色彩が大きく変わることなど、大変興味深いお話ばかりで、生徒の皆さんは真剣に聞き入っていました。この講義で得た知識をもとに、ラベルデザインとキャッチコピーの制作が夏休みの課題となりました。

～4. ラベルデザインの完成～

夏休みが明けた8月28日（木）、ザベリオ学園で高橋教授によるワークショップが開かれ、生徒一人ひとりが考えてきたデザインが披露されました。どの作品も棚田について深く理解してから描かれていることがよくわかり、手の込んだ手書きやデザインアプリ（Canva）で作られたものなどが並び、創造性豊かな作品に高橋教授も感心しきりでした。中にはそのまま商品化できそうなレベルの高いデザインもありました。

その後、9月17日（水）には、3つの棚田関係者の皆様により採用するデザインを決める打ち合わせを行いました。当初案では最も良い作品1つを採用し、それを3つの棚田毎にアレンジする予定でした。ところがレベルの高いデザインが多いことから1つに決められず、棚田毎に別々のデザインを採用することになりました。高橋教授によるブラッシュアップを経て、素敵なラベルが完成しました。

～5. 販売開始！～

SALE

300g × 3個セット
1,000円（税込）



ラベルが完成し、袋詰めを終えた商品はいよいよ販売開始となりました。

販売数は各棚田組織が米袋3つ(90kg)を提供することで300セット限定とし、価格は300g(2合)×3個セットで1,000円（税込）と決めました。

一足早く10月26日（日）に開催されたザベリオ学園バザーでの予約販売では、70セットの申し込みがあり、順調な滑り出しとなりました。

そしていよいよ、11月15日（土）、JA会津よつばファーマーズマーケット「まんま～じや」に御協力をいただき、ザベリオ学園高校の生徒、棚田活動組織の皆さん、高橋教授が参加してデザインのお披露目会を行った後、販売会を実施しました。販売会は予想以上の反響で、用意した50セットは1時間足らずで完売てしまいました。

現在（11月28日時点）は、福島市の福島県観光物産館のみで購入が可能となっています。

農林事務所ではこの取り組みを通じて、ザベリオ学園の高校生の皆さんや棚田米セットをご購入いただいた皆さんに棚田を身近に感じていただく機会を提供できたと考えています。これからも、より多くの皆様に棚田の魅力を知っていただけるよう、取り組んでいきます。

（企画部）

福島県農林水産部

公式YOUTUBEチャンネル「1400のネタばらし」配信中



会津農林事務所SNS・あいづ“まるごと”ネットSNS 更新中



X (TWITTER)



INSTAGRAM



X (TWITTER)



INSTAGRAM

【ご意見・お問合せ】

福島県会津農林事務所 企画部地域農林企画課

〒965-8501

福島県会津若松市追手町7番5号（会津若松合同庁舎2階）

☎ (0242)-29-5369 FAX (0242)-29-5389

